

放課後等デイサービス 自己評価結果 (公表)

公表：令和5年3月31日

品川区立品川児童学園

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
境・体制整	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			法令順守しています。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			法令基準以上の人数を配置しています。
	③	事業所の設備等は、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			利用児および保護者の身体状況に応じた室内環境に配慮しています。
業務改善	④	業務改善を進めるためにPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			専門家集団として、職員が日々の業務の中でPDCAを実施しています。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善に繋げているか	○			アンケート調査に記載された内容や集計結果を、事業所職員全員で共有し、その後の運営に配慮しています。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			年度内に法人ホームページで公開予定です。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			区の委託により、実施しています。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			区主催の研修、法人研修のほか、外部からの講師を継続して招聘しカンファレンスを事業部として取り組んでいます。この他、民間研修について職員全員に周知し、希望者が自己研鑽できるようにしています。受講後には、報告書の作成、資料回覧や伝達等により内容の共有にも取り組んでいます。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			事業所内で標準化されたアセスメントツールを用いて適切なアセスメントを行い、保護者のニーズや利用児の現状での評価を実施したうえで、個別の支援計画を作成しています。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			
適切な支援の提供	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			職員参加により作成した年齢別の年間プログラムを基に、グループ成員の特性に応じた活動プログラムを毎回作成しています。当日は保護者にプログラム解説も実施し、様子も併せて共有しています。
	⑫	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	○			
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			年間を通した月2回をベースにした曜日別グループ活動です。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			基本は小集団療育ですが、利用児の特性によって必要に応じて、個別的な支援を放課後等デイサービス計画に取り入れ実施しています。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			毎回、入念な打ち合わせの中で、SSTプログラム内のモデリングや予測される利用児の行動への対応策などを吟味し検討しています。また、各グループ終了後には課題のねらいに沿った活動内容や提示方法となっていたかの振り返りを行い、それを基に次のプログラムを計画する流れになっており、日々の業務の中でPDCAサイクルに基づく支援提供をしています。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			
関係機や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			サービス担当者会議の実施があまりありませんが、保護者への情報提供の内容を確認し、同意を得ながら、児童発達支援責任者を中心に相談支援事業所に積極的な連携を実施しています。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの登下校時刻の確認等）、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			保護者のニーズに応じて利用児の担任教諭や利用している方は特別支援教室担当教諭との連携を実施しています。特別支援教室利用の方については、特別支援教室の計画を保護者から情報提供していただき、整合性を図る作業も行っています。保護者とともに利用する形態のため、記載されたことでの連携はありません。
関係機や保護者との	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○			医療ケア児は対象ではありませんが、発達特性に応じて医療の定期受診や服薬調整を行っている場合は、必要に応じて保護者の許可を得て医療機関と連携を取っています。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援センター等専門機関との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			当学園児童発達支援利用をした方が継続的に利用している場合が多く、当学園児童発達支援部門との情報共有や、必要に応じて幼少期の所属集団での様子などについては児童発達支援部門から間接的に情報収集を行い、現所属集団である学校での様子や連携を検討しています。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか		非該当		小学校4年生までのグループ療育であり、設問条件には該当しませんが、終了の際はお子さんの特性や保護者のニーズに合わせてサービス提供先についての情報提供をしています。また、保護者の希望があった場合には、継続利用の放課後等デイサービスや学校への情報の引継ぎを実施しています。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		非該当		区立事業所であり、同一組織の児童発達支援センターとは連携しているため、職員研修等も合同で実施しています。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		非該当		当学園療育の目的とは異なるため非該当。

連携	⑳	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	○			
	㉑	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			プログラム活動終了後にお子さんの様子や特性をフィードバックして共有しています。また、サービス提供記録や面談、電話などを通して、保護者からの情報やニーズを収集し共通理解に取り組んでいます。
	㉒	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			保護者支援の一環として、療育中は保護者には別室で当日のプログラムのねらいについて職員から説明し、プログラム活動終了後には保護者向けに様子や特性を口頭でフィードバックしています。新型コロナウイルスの感染防止のため、密になる空間に複数の保護者が集まる環境を避けているため、保護者への支援は個別面談など限られていますが、今後も引き続き、感染予防に努めながら保護者の対応力への支援について工夫して実施していきます。
保護者への説明責任等	㉓	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			新型コロナウイルス感染防止のため、契約説明および重要事項説明会は個別に対応し、保護者から質問があった際はその都度丁寧に対応しています。請求書等については毎月15日前後に利用者負担方法や金額について個別的な説明書面もあわせて郵送し、対応しています。支援内容については放課後等デイサービス計画面談と評価面談を前期・後期に実施し、具体的な支援方法について共有しています。今後も丁寧に支援していきます。
	㉔	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			療育参加当日の話だけではなく、必要に応じて電話での相談や保護者だけ来園してもらい面談を行っています。今後も療育日以外にも迅速に丁寧に対応していきます。
	㉕	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		非該当		月2回一時間の療育のため、保護者会や父母の会の設置はしていません。小集団療育のため、保護者同士の交流ができるような話題の提供について、今年度も新型コロナウイルス感染予防のため実施を制限していましたが、今後は感染予防に注意しながら保護者同士の支援を行えるよう検討していきます。
保護者への説明責任等	㉖	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			
	㉗	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		非該当		会報はありませんが、施設全体のパンフレットや法人本部のリーフレットなどが保護者の手に届くところに置くように心がけています。月2回一時間の小集団療育以外の行事は行っていません。
	㉘	個人情報に十分注意しているか	○			
	㉙	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			知的に遅れがない発達障害児を対象としているため、親子間の意思疎通や情報伝達は基本的には行われますが、表現力のサポートをするために必要な場合は職員が親子の間に入りながら正しい情報が伝わるように個別対応しています。
	㉚	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を行っているか		非該当		
非常時等の対応	㉛	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知しているか	○			マニュアルを順守しながら今年度は特に新型コロナウイルスの感染防止に努めました。保護者やご利用のお子さんたちにも個別に対応を周知し、安心して通っていただけるよう心がけています。今後も引き続き、お子さんも保護者も安心して利用継続ができるよう努めます。
	㉜	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			施設全体の訓練や所轄の消防署の指導をその都度受けています。
	㉝	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			法人や施設全体で、年度初めに必ず研修を実施しています。
	㉞	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○			現在該当する事由はありませんが、必要があった場合は組織的に決定し、保護者の許可を得ることやお子さんや保護者へ十分に説明し、了承を得て放課後等デイサービス計画へ記載するようにします。
	㉟	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている。		非該当		
	㊱	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			今後も事業所内での共有と、ヒヤリハットの意識を職員一人ひとりが当たり前になるよう工夫していきます。